

第6回庄原市行政評価委員会 会議録（摘録）

1. 開催日時 令和6年10月8日（火）
開 会：10時
閉 会：10時45分
2. 開催場所 庄原市役所 5階 第3委員会室
3. 出席委員 清水 孝清 委員（委員長） ・ 飯田 一生 委員（副委員長）
吉本 トキコ 委員 ・ 藤元 晃一 委員
藤野 明美 委員 ・ 澤 一枝 委員
4. 欠席委員 田原 守人 委員
5. 出席職員
企画振興部 商工観光課長 堀井慎一郎
商工観光課 商工振興係長 定光 康江
環境建設部 都市整備課長 久保 隆治
総務部（事務局） 行政管理課長 関 浩樹
行政管理課 行政管理係長 奥山 寿春
行政管理係主任主事 成相 隆弘
6. 会議次第 別紙のとおり

第6回庄原市行政評価委員会次第

令和6年10月8日（火）10：00 から
庄原市役所 5階 第3委員会室

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 評価意見の総括
 - （1） 楽笑座管理運営事業
 - （2） 危険建築物除却促進事業補助金
4. 今年度の評価について
5. その他
6. 閉 会

会議経過

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 評価意見の総括

(1) 楽笑座管理運営事業

— 事務局より総括意見の説明 —

総括意見	評価：現行どおり
市民会館等の整備が進んだことで、楽笑座の利活用が減り、当該事業の目的である市街地の賑わい創出やテナントミックスを達成することは難しい状況にある。加えて、施設の老朽化が進行しており、さらなる利活用が進むとは考えにくい。一方で、施設の管理運営を業務委託から直営に変更後も少数ではあるが継続利用している団体等があることから、現行どおりの管理運営により地域における施設の利活用を図りつつ、徐々に事業の縮小を検討されたい。	

(2) 危険建築物除却促進事業補助金

— 事務局より総括意見の説明 —

総括意見	評価：拡充
今後も増えゆく空き家の対策として、本補助金は対象物件の所有者が解体をするきっかけとなるものであり、大変有効であると考えられる。さらなる空き家対策のため、少なくとも老朽危険建築物として認定された全ての物件の解体に対し、当該補助金を交付できるよう、予算措置の拡充を検討されたい。	

4. 今年度の評価について

— 事務局より今年度評価を実施した事業を振り返り説明 —

(1) 住民告知放送事業（庄原市告知端末初期設定等補助金）

（担当課：総務部 行政管理課）

担当課評価	終了
委員会評価	終了（現行2名、拡充0名、縮小1名、終了4名）
総括意見	当該補助金は、住民告知放送事業のうち住民告知端末設置のための光ケーブル引き込み工事にかかる費用に対する補助（端末機器の貸与は別事業）であるが、住民告知端末の加入率は74.1%と高水準となっていることから、当該補助金要綱における目的は達成されたといえる。スマートフォン等の著しい普及も相まって、今後、加入者が増加することは考えにくく、当該補助金の継続は有効性が低いといえる。 一方で、移住者への支援や障害・高齢等により情報を得にくい世帯への対応については、告知端末以外の情報伝達ツールも今後検討いただきたい。

(2) 庄原市買物弱者対策支援事業

(担当課：生活福祉部 社会福祉課)

担当課評価	現行どおり
委員会評価	拡充（現行 3 名、拡充 4 名、縮小 0 名、終了 0 名）
総括意見	地域の商店等の減少及び高齢による免許返納者の増加等を背景として、当該事業は、高齢者等にとって貴重な買物の場を提供するとともに、高齢者等の日頃の見守りにつながる有効な事業であり、今後期待が高まる。しかし、各事業者とも、地域貢献のため継続しているが、採算性には乏しく、今後の事業継続については課題といえる。移動販売車の更新にかかる費用負担への支援や高齢者等見守り活動奨励金の増額等により、移動販売事業者における経営の持続性について検討いただきたい。

(3) 庄原市公衆無線 LAN 管理運営事業

(担当課：企画振興部 企画課)

担当課評価	終了
委員会評価	終了（現行 0 名、拡充 1 名、縮小 0 名、終了 6 名）
総括意見	当該事業の実施により、市内各拠点にブロードバンド環境を整備してきたが、市内全域に超高速情報通信網が整備されたことで、公衆無線 LAN を利用する新規登録者は減っていることから、当初の目的は達成されたといえる。一方で、一部の公共施設ではネットワーク環境が構築されていないため、未整備の施設については新たにネットワーク環境の構築を検討していただきたい。

(4) 生ごみ処理機器購入補助金

(担当課：環境建設部 環境政策課)

担当課評価	現行どおり
委員会評価	現行どおり（現行 4 名、拡充 2 名、縮小 0 名、終了 1 名）
総括意見	当該補助金は、生ごみの堆肥化による可燃ごみの減量化を推進するため、市民にインセンティブを与える点において大変有効であり、今後も継続していく必要があるものと思われる。コンポストと電動処理機の購入価格に差があることから、将来的には処理方式に応じた補助金額に設定する等、補助金交付要綱の見直しについて検討していただきたい。

(5) 庄原市ひとり暮らし高齢者等巡回相談事業

(担当課：生活福祉部 高齢者福祉課)

担当課評価	現行どおり
委員会評価	現行どおり（現行 4 名、拡充 3 名、縮小 0 名、終了 0 名）
総括意見	孤独死をはじめとした高齢者に関する諸問題を解消するため、単身高齢者世帯の見守りを実施する本事業は、高齢化が進む現状にあつては、重要な事業として位置づけられる。地域や事業者等の多様な主体と連携し、現行のとおり事業を継続する必要がある。一方で、巡回相談員の担い手不足や負担感が課題となっているため、研修の充実化や訪問件数の多い巡回相談員の報償費増額等の対応を検討いただきたい。

(6) 繁殖用和牛造成推進事業補助金

(担当課：企画振興部 農業振興課)

担当課評価	現行どおり
委員会評価	現行どおり（現行 5 名、拡充 2 名、縮小 0 名、終了 0 名）
総括意見	本市のブランドを牽引する比婆牛をはじめとした和牛の維持につながる本補助金の役割は大きく、今後も継続実施していく必要がある。農家の高齢化、飼料価格の高騰と子牛価格の下落といった社会情勢の変化に応じつつ、農家数並びに繁殖雌牛頭数の維持に向け、本補助金も含め多面的な視点で農家への支援を検討いただきたい。

(7) 楽笑座管理運営事業

(担当課：企画振興部 商工観光課)

担当課評価	現行どおり
委員会評価	現行どおり（現行 2 名、拡充 0 名、縮小 4 名、終了 1 名）
総括意見	市民会館等の整備が進んだことで、楽笑座の利活用が減り、当該事業の目的である市街地の賑わい創出やテナントミックスを達成することは難しい状況にある。加えて、施設の老朽化が進行しており、さらなる利活用が進むとは考えにくい。一方で、施設の管理運営を業務委託から直営に変更後も少数ではあるが継続利用している団体等があることから、現行どおりの管理運営により地域における施設の利活用を図りつつ、徐々に事業の縮小を検討されたい。

(8) 危険建築物除却促進事業補助金

(担当課：環境建設部 都市整備課)

担当課評価	拡充
委員会評価	拡充（現行1名、拡充6名、縮小0名、終了0名）
総括意見	今後も増えゆく空き家の対策として、本補助金は対象物件の所有者が解体をするきっかけとなるものであり、大変有効であると考えられる。さらなる空き家対策のため、少なくとも老朽危険建築物として認定された全ての物件の解体に対し、当該補助金を交付できるよう、予算措置の拡充を検討されたい。

事務局 今年度最後の行政評価委員会であるため、今回が評価いただいた事業の総括意見を修正する最後の機会となる。修正意見があればお願いしたい。
(→ 修正意見なし)

委員 行政評価委員会での評価結果を受けて、担当課で検討された結果については知らせてもらえるか。

事務局 担当課での検討の後、整い次第、結果を委員に連絡する。また、ホームページにて公表する。

委員 行政評価委員会での評価内容を採用した、あるいは評価内容を検討したが採用できなかった場合はその理由等について分かるようにしてほしい。それが明らかであれば、自分たちが行政評価委員会に参加した意義を感じることができる。

5. その他

6. 閉会